

○議長（牟田勝浩君）

おはようございます。前日に引き続き本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は5番山口良広議員の質問まで終わりたいと思います。

それでは、10番古川議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

おはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、一般質問を始めたいと思います。

朝晩ぐっと冷え込んでまいりまして、12月定例会らしくなっていてまいったところでございます。けさ新聞を見ておりまして、年末恒例のことしの漢字というのが載っておりまして、「絆」という字に決まったということでした。東日本災害で改めてきずなの大切さが再確認されたものと思います。災害支援のボランティアも5月を最高に、現在では1割程度に落ち込んだということで報道されておりました。市長が言われるとおりの、長く力強い支援が必要であろうと思うところでございます。

〔市長「長く細くよ。力強く」〕

さて、質問に入ります。

昨年の12月議会でもお尋ねをいたしました。武雄市の食育推進についてお尋ねをいたします。

がばい武雄の食育推進計画に沿って、多くの事業を推進しておられるとお聞きいたしました。これはひとえに、こども部長以下職員の皆様方の努力のおかげと深く感謝をいたしておるところでございます。

去る11月3日、文化の日に文化会館大ホールで、武雄市食育アドバイザーの杉田かおる講演会が開催されました。武雄市の食育の盛り上がりを感じたところでございます。野菜の直売、加工品の販売、それから豚汁の振る舞いなど大盛況でございました。ところで、この杉田かおる講演会について、参加者数、それから市民の反応はいかがであったか、まずお尋ねを申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

おはようございます。（パネルを示す）こちらが11月3日の講演会の際のポスターでございます。議員の皆様におかれましても、お忙しい中、多数参加いただきましてありがとうございました。

(パネルを示す) こちらのほうが当日の状況でございますが、当日の参加者数は、関係団体の方合わせまして1,100人ほどの方に御参加をいただきました。その中で、当日の参加者のお声として、「自然や食の大切さを改めて気づいた」とか「オーガニックライフをもう少し知りたい」とかというような御意見もいただきまして、多くの方の意識の啓発、それから参画団体の意識向上につながったと感じております。

**○議長（牟田勝浩君）**

10番古川議員

**○10番（古川盛義君）〔登壇〕**

1,100人の参加があったということでございますが、非常に素晴らしい講演会でございます。このように盛り上がりがある食育でございますが、東日本大震災を踏まえて、予測をはるかに超えた災害が発生したとき、我々はどうしたらいいのかと、食についても改めて考えさせられる時期だと思います。

私も10月2日からチーム武雄の一員としてボランティア活動に参加させていただき、東北の陸前高田市へ参りました。そして、そのとき広田半島の広田地区というところに参ったわけでございます。そこは半島でございます、震災から数日間孤立をしたところでございます。3日目か4日目にアメリカ軍がヘリコプターで物資を、食料を運んでくれたと、そして、その次の日に自衛隊が仮設道路をつくりながら、日の丸の旗を立てて、援助物資を持って来てくれたと。飲む物もない、食べ物もない、住むところもないというような状況で、本当に日の丸の旗を見たときに、「日本人でよかった、日本に生まれてよかった」と、「こう感じたのは初めてでした」と地区の人が言われました。私、その言葉を聞いたとき、市長が武雄に生まれてよかった、武雄で育ってよかったというような武雄市をつくりたいと最初に言われたことが思い出されました。そのような市にしていきたいと、私も努力したいと思っております。

もし、大災害が来まして電気がとまった、飲む水がないと、食べ物もないというような状況になったとき、武雄市では災害に対応する手段としてどのようなことを準備してあるのか、お尋ねを申し上げます。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

備蓄は大変重要なことです。具体的に申し上げますと、私どもとすれば、平成20年度から食料の備蓄に取り組んでおります。ですので、20年度買ったものに21年度、そして22年度というのをどんどん加えていくわけですね。これ、賞味期限がありますので、この分については適宜訓練等で――いや、廃棄はしません。訓練等で使用するというようにしております。

食料、アルファ米、おかゆ、乾パン、ビスケット、ミネラルウォーター、5,700人分の3日分を現在備蓄しております。これでちょっと多いのか少ないのかということに関しては、

また、これ議会、皆さんごらんになられていますので、また御意見お寄せいただければと思うんですけども、文化会館、両支所、各町公民館等に分散をして備蓄しています。

飲料水の確保については、本年6月27日、市内の有限会社アクアクララ佐賀との災害時における飲料水等の提供に関する協定を締結しており、このアクアクララ佐賀さんからは、災害時には1万2,000リットルの水を提供していただくことになっております。

備蓄の一部は、先ほど申し上げたように防災訓練にも活用しております。そして、武雄市が全国で一番早く救援物資を持ってきてくれたということになっておるんですけども、これも私どもが日ごろ市民の皆さんの御理解を得て備蓄している物のごく一部を供出させていただきました。そういったことで、これがまさか我々がためているとが他地域で使えるというのは、ちょっと夢にも思いませんでしたけれども、こういった意味で善意の輪が武雄から広がったことに関しては喜ばしく思っておりますし、これについて、議会がそうせいと言ったことに関しては、武雄市議会に心より感謝を申し上げたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

そしたら、今現在は5,700人分の3日分の備蓄があるということでございますか。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

当時、宮城県のほうに出しました分につきましては、平成22年度の購入分で補充いたしておりますので、5,700人分は現在ございます。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

3年前につくられた武雄市の食育推進計画で、災害時の対応などは含まれておったのかどうか。それから、武雄市の推進計画で幾つかの数値目標を上げておられました。効果が得られたもの、また、数値目標に多少届かないものというのがあると思いますが、どのような実態であるかお尋ねを申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

3年前に制定いたしました、がばい武雄の食育推進計画でございますが、この中に災害等についての部分はありません。今後、こういう計画も必要ではないかとは考えておりますが。

それともう1つ、これまでの1次計画の中での数値目標でございますが、数値目標を設定しておりました学校給食における県産食材の利用率は、平成19年が46.9%、平成22年が64.5%で、目標値50%を大きく超えて達成しております。

目標値に及ばなかったものとして、市民の望ましい食習慣の定着として年代別肥満の割合を挙げたいと思います。40歳から50歳代の数値で肥満の者の割合が男性で目標値21%に対し実績36.3%、女性で13%に対して17.9%と、目標にはほど遠い状況です。この基礎データは、国保加入者の特定健診データを使用しておりますので、若干正確さを欠いているかも知れませんが、生活習慣病に結びつく可能性が高い肥満傾向が進んでおり、今後も注視していく必要があります。おやつの習慣化や1回にかむ回数が少なくて満足感が得にくい状況にあるのも大きな原因であると推測しますが、今後は生涯にわたっての食育の流れからしても、日常的な運動を取り入れたり、保健・医療部門との連携を強化するなどの施策が必要だと考えております。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、質問を聞きながら考え方を変えました。食育と災害は何の関係のあるとですかねとかと思っていましたけど、やっぱり関係ありますよ。もう盛義議員の言うとおりです。

それで、何でそういう考え方に至ったかという、さきのNHKの「ニュース7」で、ずっと長期化していきよったら、もう御飯ば食べとうなかって。そいけん、例えば、ここにもレパートリー結構あるとですよ。アルファ米でも五目御飯とかワカメ御飯とかありますけれども、やっぱり飽きるわけですよ。そいぎ、何を言いたいかという、NHKの中では、みそにショウガとニンニクばすったとば入れて、そいば焼いて、そして、そいばお握りにして食べたら急に皆さんの食欲が増したという事例があったわけですね。

そいぎ、私は全部そいば用意せいというやなくて、食改とかと話をして、そういうメニューをあらかじめつくっておこうというふうに思っています。それは、本当の意味での非常時における食育ですもんね、これ。やっぱりこの前、私も避難所に参りました。盛義議員も行かれたと思いますけれども、やっぱりいっぱい物資はあるとですよ。しかし、栄養失調という話を結構聞いたですもんね。食物繊維が不足したりとか、油の取り過ぎとかということに関して言うぎ、それをつくっていることが、これ、実は日ごろの食育にもつながっていくことを思いますので、ぜひ食改と、中尾会長さんと話をしますので、そういったメニュー開発も含めてするということをお約束したいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

バランスのとれた食事をするということが求められるということなんですが、武雄市の方が肥満度が高いというのは、武雄市がそれだけ栄養が行き渡っておるということじゃないかと思います。

〔市長「いや、そがんことなか」〕

また、食育の推進の活動については、多くの団体の方がかかわっておられると思いますが、主な団体としてどのような団体がかかわっていただいておりますのか、今後どのような活動で推進するのがより効果的であるのかというようなことをお尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

市民団体の活動についてのお尋ねでございますが、まずは目的を同じにする食生活改善推進協議会、こちらや、婦人会が各地で実施するふるさと料理教室などは広く御協力をいただきました。

また、1次計画では、子ども、野菜、体験などがキーワードになっていましたので、幼稚園や保育園、学校などの子どもたちの野菜づくり体験活動の受け皿となって指導していただいた団体として、武友会や山内町オアシス会、地元産の野菜や加工品を販売している味菜ネットワークを挙げることができます。

先日、武友会と旅館京都屋さんがコラボレーションした武友御膳の試食会が行われ、観光と食と農の組み合わせによる取り組みが紹介されました。同時に、武雄市商工会も地元食材をたくさん使った武雄若楠ポーク黒米弁当の開発に着手されており、食と農のきずなづくりは武雄ならではの味として地産地消や観光の拠点となっている物産館や黒髪の里などの直売所や食事どころの取り組みに加えて、新たな実を結びつつあります。

また、効果的な推進方法ということですが、食の基本は家庭であり、個人の意識が左右することから、情報提供に重きを置くことは重要なことと思います。

また、子どものときに覚えたことを大きくなってから修正することは難しいので、従来のように保育所、幼稚園、学校などの集団の中での食育は重要なことだと感じております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

地域団体と連携をしながら食育推進に邁進しておられるということは十分わかりました。今後、いろんなイベントかれこれありますが、食育を推進するためには、地域団体が主導権を握り、市がそれをサポートするというような形に徐々に変えていくべきではないかと私は考えます。食育課の皆さんが大変頑張っていただいていることは十分理解をするところでございます。

次に、学校給食についてお尋ねをいたします。

学校給食の副食における県内産食材の割合については、目標に達しているということでございましたが、食育について、学習指導要領にも組み込まれたと聞いておりますが、学習現場での食育指導というのはどのようになされているのか、お尋ねを申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

今お話にありました食育課を、市長、19年に設けられたわけでありましたが、この食育課があるということが非常に学校給食推進上もやりやすい体制ということで、ありがたく思っております。生涯を通じた食育の中で、学齢期の部分、ここの学校給食をどう充実させるかということでございますが、端的に言いますと、時間割は知らなくても、その日の給食メニューは知っていると、子どもたちの食への興味、関心というのは非常に強いわけでありますので、そのタイミングをとらえて、より充実させていきたいというふうに思っているわけです。

ここ数年、法的な整備もいろいろなされてきて、話にありましたように、学習指導要領等でも食育が重視されてきているわけでございます。もうこれまでもしばしば言われておりますように、健康な生活を営むためにはどういう食習慣がいいのかと、あるいは感謝の心とか、一緒に食べながらの好ましい人間関係をつくり出すために有効であるとか、あるいは食料が外国からこれだけ輸入されてきたりというような状況、そういうことを考えますと、食育、学校給食での指導の可能性というのも非常に強くあるわけでございます。

そういう中で、学校としては食に関する全体計画をいかに計画的に進めるかということが大事でありまして、全体計画を作成して取り組んでおります。もう見られていると思いますけれども、給食献立、あるいは栄養のポスター、校内放送での一口メモ等、学校給食そのものの指導、あるいは給食当番活動を通じた特別活動の領域での指導、給食委員会とか学校行事等もございます。あるいは教科の中で、社会科でする、あるいは理科で植物の成長など、あるいは動物も含みますけれども、生活科の中で家庭生活を扱うところで指導すると、あるいは家庭科はもう直接調理をしたり食事の見直しをしたりと、体育の中でもするわけでございます。

また、武雄ならではのところで、田んぼづくりを小学校4校でやっておりますし、中学校1校では一日農業体験をやりと、あるいは職場体験としても数カ所で受け入れていただいております。そういう中で、栄養職員、栄養教諭につきましても、現在6名という非常に恵まれた体制で学校給食を推進しているところでございます。

いずれにしても、食育課、それから農林商工課初め今御紹介ありましたいろんな各団体の方の御協力も非常に強く受けておりまして、そういう中で、学校現場での食育は非常に充実していく方向にあるというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

学校給食においては、平成8年から民間委託が開始され、13年度には旧武雄市内、中学校3校、小学校8校がすべて民間委託になりました。現在では北方、山内の給食センターも民間委託になっております。学校給食の委託料というのは、調理業務費、技術料を主として衛生管理料を含んでいると思います。平成21年度より一般競争入札ということで3年間が経過いたしました。今年度より2回目、二回目目の入札となるわけでございます。3年間を検証いたしまして、どのようなところにメリットがあったのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

平成21年度に給食調理業務委託業者選考委員会を設置して、方法を検討いたしました。そこで、仕様書に記載した給食調理業務の作業を委託するもので、民間のノウハウも十分整備をされているということを考えて、平成21年度より競争入札を実施したところでございます。メリットとしては、当然入札の実施によって入札減等があるということで、委託料の削減になったというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

時代の流れといたしまして、業務委託をするときに随意契約じゃなくて一般競争入札が透明性、公平性を保つには一番いいということは十分理解をしております。

また、入札減が生じ、不用額もふえたということでございますので、これはいいことでございます。

また、地産地消などを進める立場から見ますと、地元産品の利用も学校給食が一番やりやすいと、また、武雄市の生産者の皆さんの結局収入アップにもつながるということで、非常によろしいとは思いますが。教育委員会といたしましては、落札業者の方に、なるべく市内の方を雇用してほしいというお願いをしておられます。また、調理員の方々は、ほとんどが武雄市内の方が従事していただいております。今後、入札でどんどん委託料が下がった場合に、民間企業のことですけれどもいろいろできないかとは思いますが、調理員の方の給与が確保されるのかどうか危惧をしているところでございます。現在も人員の削減や正職員からパート職員への変更、それから勤務時間の減と、それから時給の減などが行われております。民間企業に委託しておるわけですから関与はしにくいという面もあると思いますが、その点、委託前に多少の指導ができないものかどうか、お尋ねを申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

委託業者従業員の方への給与については、受託業者が支払いをしているため把握できていないというのが実態であります。今、御心配の部分につきましては、ハローワークを通じて調理員の募集が行われているというふうに思っておりますので、適正な給与が支払いをされているというふうに考えているところであります。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

適正な給料が支払われておるといことでございますが、発注者としてしっかりその点を把握していただきたいと思えます。

学校給食については、調理業務ともう1つ、食の安全・安心を守るといような重要な任務があると思えます。地震、津波、原子力災害と大災害の後、食の安心・安全が問われております。食の安全をしっかり守ってほしいと考えるところでございます。

それから、本年度、武雄中学校、川登中学校、北中の3校が入札を予定されております。学校給食では一般の入札とは違い、子どもたちの食に関することですので、安ければいいということばかりではないと思えます。今後、入札のあり方をどう考えておられるのか、お尋ねを申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

業務仕様書に基づきまして予定価格を設定して入札を行っていききたいというふうに思っていますし、当然安全・安心の学校給食ができるように努力をしていききたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

仕様書に基づいて調理全般ができていのかどうか、監督業務を教育委員会としてはぜひお願いをしておきたいと思えます。

また、今後の対応といたしまして、調理室の設備の拡充に力を入れてほしいということもお願いをいたします。設備拡充はまた別予算でやるべきであろうというように思いますが、入札減も生じておりますので、設備拡充など、十分に学校側と協議をいただきまして、改修に力を入れてほしいとお願いを申し上げまして、私の一般質問を終わります。

○議長（牟田勝浩君）

以上で10番古川議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、10分程度休憩いたします。

休 憩 9時32分